

会議状況等報告書							報告者	倉地 智久			
会議の名称		令和2年度第2回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会									
日 時		令和3年2月24日（水） 13時30分～15時00分						場所	おおぶ文化交流の杜 サポーター室2		
出席者	委員	藤澤 幸子	伊佐治 多美子	岡田 知之	加古 有子	倉田 節子	橋本 早織	村井 尚美	山川 剣		
		○	○	○	○	○	欠席	○	○		
	事務局	今村 部長	田中 課長	山本 係長	倉地 主任	上野 図書館長	小倉 マネージャー				
		欠席	○	○	○	○	○				
傍聴者 0名											
内容											
1. あいさつ ◆藤澤委員長あいさつ 最近はコロナ禍のため、顔を合わせた会議を開催することが少なくなっている。 私も全国展開している AFS という留学生の団体でボランティア活動をしているが、現状リモートの会議を頻繁に開催しているが、集まれなかったから集まらなかったけれど、集まれるようになってからも気軽に声掛けをできるようになるのか分からない。今日は久しぶりにお顔を拝見できたので、皆さんのご意見を伺えればと思っている。1月24日に国際交流協会の日本語発表会というイベントに出席し、留学生が日本での経験を日本語で話している姿に感動した。国際交流協会では、留学生のために日本語教室を開催しているが、図書館についても留学生が日本語を勉強したい時に気軽に訪れることができる場所になれば良いと感じた。 2. 議題 (1) 令和2年度第3四半期事業実施報告について（資料1～5に基づき事務局説明） 【説明概要】 第3四半期の入館者数は、少しずつ増加傾向になっている。また、貸出件数は例年並みに戻ってきている。 コロナ禍の影響により予約件数が増加している傾向が続いている。昨年に休館した際、ネットで予約し本を借りられることを多くの利用者に周知することができたのではないかと。また、本を公民館で借りて図書館に返却する方が多かった。 レファレンスの件数が少ないというご意見をいただいたが、開館当時からレファレンスに届いた質問をその日のうちに回答することができた場合は、クイックとしてカウントをしていたことが分かった。10月以降にクイックとしてカウントしていた内容をまとめているので確認いただきたい。 このレファレンス件数は、レファレンスカウンターのみの数値であり、同様の質問を一般や児童カウンターで受けた数値は含まれていない。児童カウンターでは、											

ボランティア団体のO. L. V. が講座を行うために毎回冊程度の絵本を探している。O. L. V. 独自に記録冊子を発行しており、図書館と内容の精査をした上でデータ作成をしているが、これもレファレンスに含まれると感じている。レファレンス件数の集計方法については、3月から変更していく。

コロナ禍の影響もあり、暮らしなど一般の貸出件数が前年よりも増加している。

また、地区別登録者・貸出者数についてもこれまでと同様、おおぶ文化交流の杜の周辺の方の割合が高い傾向となっている。

昨年の7月から「おうちで本を読もう」というテーマを掲げ動画配信サービスを実施したり、通信講座やオンライン講座も開催している。サポーター養成講座では、絵本講座として世界の絵本を紹介し、記録冊子も作成している。放課後クラブに出張読み聞かせを実施。市民文化交流イベントでは、名古屋市在住の芥川賞作家、諏訪哲史氏の講演会を開催している。ふるさと講座では、大府市にまつわる偉人の紹介や文化財に関係した人物や工法等を紹介した。

期間中に発生した事故・利用者からのご意見として、手指消毒に関することやイベントの告知方法に関する、資料コピーの申請に関する、館内表示に関する、館内マナーに関するなどがあった。

<委員長>

これまでの説明について何か質問などあったらお願いします。

<B委員>

前回の会議でレファレンスサービスが重要であると発言させていただき、早速改善のアクションをしていただき感謝している。レファレンスの事例に示されている中で、棚の位置を聞くようなその場で解決できるようなものはクイックでカウントすればよいと思う。検索した結果、所蔵がなかった、情報がなかったなどと、記録上、それで終わってしまっているものなど解決できなかった事例に対して、この回答だけで対応を終えてしまっているのであれば、図書館のサービスとしてはどうなのかなと思う。貸出件数が日本一なのは素晴らしいことだが、図書館になじみのない市民に対してもレファレンスという素晴らしいサービスがあることを分かってもらうことが重要だと思う。だからこそ、レファレンスサービスは、その場で1人のスタッフで解決できなかったことを記録して終わるのではなく、解決するためにスタッフ同士で情報共有し、協力し合うことを積み重ねていくことが素晴らしい図書館サービスにつながると思う。

前回も発言したが、国立国会図書館のデータベースの登録がここ最近で1件も増えていないことと、ホームページに掲載されているレファレンスの事例が1年程更新されていない。

ICTを活用するとともに、スタッフは人対人のサービスに専念できるようにしていくと良いのではないかなと思う。

<事務局>

何年も正確なレファレンス件数を集約できていなかったことは事実であるため、見直しをしていきたい。国立国会図書館のデータベースについても更新をしていきたい。

<委員長>

国立国会図書館のデータベースに登録することは、人手が必要になるのか。

<事務局>

やり方が整理できていればそこまで人手が要ることではないが、ある程度の人員は必要である。これまで何年もの間、ほとんどがクイック案件で処理されていたため、記録に残さずに（データベースに登録せずに）終わってしまっていたことが反省点である。

<委員長>

質問概要を見ていると、資料にまとめるだけでも相当な事務量になり、なかなか効率化が難しい部分もあるかと思うが、レファレンスサービスのやり方を見直してほしい。データベースやホームページの更新を簡易的に（連動して）行えるやり方があると良い。また、レファレンスサービスは図書館としても大切なことだと感じるため、このサービスを上手にPRしていけると良い。

<E委員>

レファレンスサービスは、専門の担当者が対応しているのか。

<事務局>

レファレンス班の職員が対応している。

<E委員>

その中で分野ごとに精通している職員がいるのか。

<事務局>

難しい質問があればレファレンス班で情報共有をして対応している。

<E委員>

記載されているエルシエロとはなにか。インターネットとは違うのか。

<事務局>

図書館の蔵書などの管理ソフトである。図書館の本を調べるのに使用したりする。インターネットエクスプローラーとは違う。

<A委員>

以前に学校貸出が少ないと言われてきていたが、以前よりも学校への貸出件数が増加している。しかし、安城市では新しい図書館ができてから学校への貸出件数が5倍に増加しているという記事が日経新聞に記載されていた。

大府市でも学校への貸出件数を更に伸ばすため、安城市の取り組みを紹介していただき、参考にしてみてもどうか。

<B委員>

学校貸出冊数は、どのぐらいか。

<事務局>

月平均で約400冊程度である。

<B委員>

学校貸出と団体貸出は、別物なのか。

<事務局>

別にカウントしている。団体貸出は、学校以外の放課後クラブ等の貸出冊数になっている。

<B委員>

安城は団体貸出の中に小中学校や児童クラブなど全て含んでおり、旧図書館の時代は、学校を含む団体貸出件数としては、年間約5万冊で、月平均で約4,000冊だった。旧図書館の時は、団体に貸出・返却時に図書館に来てもらう仕組みだったが、新しい図書館に変わった際にシルバー人材センターを活用して、安城市内の29の小中学校へ本の配送サービスを始めた。また、図書も以前は学校単体で管理していて、学校の先生が登録していたが、

公共図書館と小中学校のシステムやデータベースを一元化することで、図書の検索などが簡易になった。図書の管理システムの一元化と配送を行うことで、小中学校における負担が軽減され、貸出件数が増加した。朝の読書で使用する本なども定期的に 3 週間毎に玉突きで学校へ配送するようにしている。

調べ学習の本についても申し込みがあれば、シルバーの配送便にのせて図書館から学校へ届ける仕組みを構築している。全国的にも進んでいる仕組みだと思う。

< A 委員 >

朝読の本を何十冊か定期的に回しているということで、すごく冊数も増える。

< B 委員 >

小学校は、低学年・中学年・高学年で各 20 冊、中学校は、各学年で各 20 冊を司書が厳選したものをコンテナで配送している。中学生にも、中学生に読んでもらえると良い絵本なども入れ、バラエティーにとんだ選書をしている。

< A 委員 >

一斉に各学校に 60 冊ずつ回っていくということか。

< B 委員 >

そうである。一周して戻ってくるのに、半年くらいかる。また、その本については団体貸出冊数にカウントし、貸出冊数がのびている。

子どもたちにとっては、これまで学校の本しかなかったのが、新しい本が 3 週間に 1 回、自分が選んでこなかった本があったりということもあり、新鮮で、先生方の負担も少なくなるなど良い評価を得ている。

< A 委員 >

図書館の負担はどうか。

< B 委員 >

図書館のお金の負担がかなりかかっている。

担当の専属スタッフもいる。

< A 委員 >

学校内の運用はどうなっているか。

< B 委員 >

各教室を順番に回っていくケースもあれば、廊下に置いておいて、自由に見てもらうケースなど運用方法は学校によって違いがある。

< A 委員 >

読みたかったけど、読めなかった本は、図書館に来て、借りていくことになるのか。

< B 委員 >

続編や気になる本があれば学校の図書館の端末から予約ができ、子どもの図書館利用も増える。

< 委員長 >

現状、大府市は学校と図書館がシステムでつながっていないのか。こうした取り組みは難しいか。

< 事務局 >

つながっていない。PFI という手法をとっていると、契約内容を変更する必要があるため、すぐに実現は難しい。次の契約の際の検討事項としていきたい。

< A 委員 >

大府の場合、配送はしてもらえるのか。

<事務局>

図書館に取りに来てもらわなければならない。先生のオーダーに応じて、司書による選書などは行う。

<委員長>

対応するのは、様々な観点から難しいかと思うが、子どもの読書の習慣づけに繋がるため取り組んでほしい。

<委員長>

期間中に発生した問題で、新聞をコピーする際に申請書に日付や新聞社が未記入だったことについて、コピーをする場合は、申請の記入がある旨の表示はどこかにあるか。最初からコピーをする際には、申請書の記入が必要であることが分かれば、こういう問題は起こらないのかとも思った。

<事務局>

コピーする際に、お金が必要であることと申請書への記載を直接口頭でお願いしている。

<C委員>

新聞のコピーに関することは、もしかしたらその方の思想などによるものもあるかもしれないので、それを記録されたくないから記載したくなかったということではないのか。

<事務局>

実情は分からない。

(2) 令和3年度事業計画について 資料6

【説明概要】

コロナ禍で不透明なことが多いが、案として例年通りでのイベントを企画している。令和元年度の文部科学省の委託事業ということで、公共図書館事例集が作成され、鶴舞中央図書館、安城市図書館情報館、おおぶ文化交流の杜図書館の3つが紹介された。事例集にあるように令和3年度も様々な企画を進めていきたいと思う。

<A委員>

サポーター養成講座について、絵本講座は、O. L. V. さんが高度なレベルで良い企画で実施されている。

サポーターで、修理や配架ボランティアは中々集まらないという話があったが、現状はどうか。

<事務局>

修理・配架ボランティアは少数いるが、まだまだ集まっていない状況。

<A委員>

個別でばらばらで来るより、曜日などを指定して、一緒に作業すると、来やすいのではないかという声がこの会議の中でもあったと思うがいかがか。

<事務局>

新型コロナの影響もあり、難しい状況。

<A委員>

おはなし会について、会場が図書館としかないので、放課後クラブやルミナスなどの出張おはなし会についても入れておくと良い。

<事務局>

了解した。

< A 委員 >

市民文化交流イベントだが、本をとおしてつながるイベントとなっているが、外国人の子どもなどに対しても、例えば、文字数の少ない簡単に訳せるような本を用意したり、日本の子も外国の子も一つの絵本をお互いの国の言葉で読みあったりすると、お互いの言語に興味を持ったり、親近感が湧くような企画になると思う。

< 委員長 >

一方的な発表よりも相互で言語に親しめるようにするのは良いかもしれない。こうした企画は過去に、なかなか人が集まらなかったということがあったが、市内に住んでいる外国人は、日本人と交流したいと思っている人がいると思うので、橋渡しができると思う。

< 事務局 >

市民文化交流イベントというよりは、文章講座であったり、英文多読のなかで、参考にさせてもらうのも良いと思う。

< C 委員 >

学生のボランティアや参加者はいるのか？

< 事務局 >

子どもまつりにはこれまではいなかった。

< C 委員 >

サポーター養成講座や子どもまつりのボランティアは、学生にとって魅力的で、ゼミの一環で参加できれば良いが、授業や試験などと重なり、タイミングが悪い。とても良い機会では是非参加させたいが、8月まで授業を行っている。9月は比較的に空いている。

< 事務局 >

子どもまつりなどは、ボランティア団体が主催で、小学生の日程を優先し開催日を決定している。中学生には、ボランティアをお願いしている。大学との連携は、ずっと実現したいと思っていて、学生の参加や大学の先生に講座を行ってもらうことなどできると良い。

< 委員長 >

市民文化交流イベントなどで大学生に関わってもらえるような企画を計画できると良い。

< B 委員 >

資料6は、イベントの計画になっているが、図書館の運営計画はあるのか？

< 事務局 >

アローブ全体で15年間のビジョンがあり、5年ごとの中期計画を立て、年度ごとの計画と実績を、別の協議会を議論している。

< B 委員 >

この委員会は、図書館の運営について議論する場なので、図書館のサービスに関する計画についてはこの場でも検証して、次につなげていくことがよいのではないか。

< 事務局 >

了解した。

< 委員長 >

内容の共有し、計画を協議していけるとよい。

(3) 大府市読書活動推進計画 2021 について 資料 7

【説明概要】

来年度で計画期間が満了となる。

前回の方針等の枠組みを大きく変えずに踏襲する。

策定の経緯に新法令等を追記、計画の位置づけ（第 6 次総合計画など）、計画期間を令和 4 年度から 5 年間に設定、計画の目標「不読率」を設定、環境づくりに関することを設定。

新規で大府市の読書環境について新設する。読書活動推進のための取り組みについて、各種団体や担当部署に状況と取り組みについて確認し、修正していく。

大府市の読書事業に関してお気づきの点があれば、アンケートに記入をお願いしたい。

< B 委員 >

不読率については、今の読書推進計画にもあるのか？

< 事務局 >

現読書推進計画ではなく、第 6 次総合計画で設定されたため、それに紐づく計画として、今回新設する。

< B 委員 >

総合計画に記載のある 54.8% という不読率は、市民全体の不読率か。

< 事務局 >

市民意識調査というものを 2 年に 1 度、市民 3000 人を無作為抽出して、調査をしているが、調査対象者に子どもが含まれていない。

< B 委員 >

第 5 次の総合計画についても目標値として不読率があったか。

< 事務局 >

図書館に関する目標設定がそもそもなく、今回初めて不読率を設定した。

< B 委員 >

なぜ不読率を指標にしたのか。ほかに適切な指標がなかったのか。

< 事務局 >

初めての指標として、客観的に分かりやすいものということで設定した。将来的に、こうした指標の方が望ましいものがあれば、ご意見を頂戴できればと思う。

貸出冊数なども議論の中にあったが、国なども特に子ども関係は不読率が指標になっていたことも設定した要因の一つ。

< B 委員 >

小中高生を対象に、たくさん本を読みましようというのが文科省が推奨していることで、そこに関する不読率を確認しているが、私は、生涯学習の一環として、大人に対してたくさん本を読みましようとして行政がいうのは、少し違うと思っていて、図書館の指標として、不読率が一番の指標かという点では疑問がある。

< 事務局 >

今後の指標設定にも大変貴重なご意見となるため、ぜひアンケートにも記入いただけるとありがたい。

< 委員長 >

その他、全体をとおしてでもよいので何かあるか。

< D 委員 >

看護学部だが実習すら受け入れをしていただけない状態である。実習は通常だと終わって

いるが、春までずれ込んでいる。実習に行くには、厳しい体調管理が必要になっている状況。将来的に、コロナが落ち着いた際には、大学生のボランティアにも協力できればと思っている。

< F 委員 >

SNS 発信や動画配信を積極的に行っていて、今年度はコロナの関係で、対面でできなかったときに動画配信という手段をとっていると思うが、これを定期的に行って、SNS との連携をより検討しながら取り組むのがよいと思う。

Twitter のフォロワーがどのくらい増えているか調査をしていくと良い。

< 事務局 >

講座やイベントなどを SNS で発信しているが、なかなかフォロワー数が増えない状況。動画配信など再生回数が少しずつ増えているものもあるので、継続して実施していければと思っている。

< 委員長 >

若い世代は情報を Twitter やインスタグラムなど SNS で得ることが多いので、今後とも継続していくと良い。

< 事務局 >

ティーンズの利用者を増やしていくためには、SNS による情報発信は欠かせなくなってきたるので、力を入れていきたい。

(その他)

< A 委員 >

読書記録がスマホで管理できるアプリがある。そのアプリを利用するには本の後ろに印字されているバーコードを読み取る必要があるが、貸出本の中にはそのバーコードの上に IC タグが貼ってあることがある。そのアプリを活用できるようにシールを貼る位置を変えられると良いと思う。

< 事務局 >

おおぶ文化交流の杜図書館の本については、決められた場所に IC タグが貼られた状態で納品されるため、そのアプリに対応できるように調整することは難しいと思われる。

< 事務局からの連絡事項 >

大府市の組織改正により、令和 3 年度より市民協働部 文化交流課に変わる。その関係で窓口が大府市役所 3 階に移動する。歴史民俗資料館の管理の中で大倉公園にある休憩棟・管理棟が新しく追加される。

令和 3 年度より委員会の委員報酬を減額することとなった。ご理解いただきたい。

【次回開催連絡】

(第 1 回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会)

日程：令和 3 年 6 月 30 日（水）午後 1 時 30 分から開催する。

場所：おおぶ文化交流の杜サポーター室 2（予定）